

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.4 5

開催地：芦北町

平成 19 年 11 月 1 日（木）、芦北町吉尾公民館において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 30 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

| | |
|----|------|
| 町内 | 23 名 |
| 町外 | 2 名 |

※参加者数は記名者数

| 住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問 | ご意見・ご質問への回答 |
|--|---|
| <p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本高水流量は見直すべきだと考えている。その理由としては、国交省は（小委員会では森林には保水力があると説明しているが）、以前は森林の保水力は無いという結論を私たちに説明していた。これに関しては素直に誤りを認めて欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 過去の討論集会等では、日本学術会議の答申を用い、「森林は中小洪水においては洪水緩和機能を発揮するが、大洪水においては顕著な効果は期待出来ない。」との説明を行ってきたところです。 基本高水のピーク流量等の治水計画は森林の存在を前提としていることから、治水上、我々河川管理者としても森林の保力は重要であると認識しています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 私たち林業伐採者に対し植林をすればいいと行政は指導しているが、保水力があるならば、私たちに協力をお願いすべきではないか。私たちが植林しなければ、なおさら洪水緩和機能の増大は期待できないのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本高水のピーク流量等の治水計画は、森林の存在を前提としていることから、治水上、我々河川管理者としても森林の保力は重要であると認識しています。 林業に従事される方々が、森林を手入れし管理されていることは非常に有り難いことであると思っています。国土交通省としても林野庁など関係機関と連携して森林の保全に努めていきたいと考えています。 |
| <p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 球磨川の沿川で生活する人達は、球磨川の恵みで豊かに生活をしてきたが、瀬戸石ダムができてから大きく変わった。ダムを造ることには反対したが、ダムを造ることで水害が無くなるということで行政、発電会社から説得され、ダムができた。現状では私たちが住んでいるところは毎年水害にあっており、ダムを造ることで水害が無くなるというのは全て嘘だった。 | <ul style="list-style-type: none"> 電源開発(株)が設置した瀬戸石ダムは、治水を目的としたダムではなく、発電専用ダムです。 このため、上流から流れてきた洪水を軽減する機能は有しておりません。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 県の市房ダムの放水によっても災害に遭っていることを体験している。ダムが無いことが私たちにっては一番大切なこと。報告会での説明はダムありきでの話にしか聞こえない。 | <p>【熊本県回答】</p> <p>瀬戸石ダムは、治水目的を持たない発電用ダムで、電源開発(株)の管理です。市房ダムは県が管理しています。市房ダムの操作についてですが、洪水調節の際はダムに流入してくる水の一部を貯め込み、流入量より少ない量を放流します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、球磨川における長期的な河川整備の目標等を定めるものであり、ダムの整備など具体の事業については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。 なお、報告会は、基本方針の内容及び審議経緯等について地 |

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・森林の洪水緩和機能にも限度があるというが、いろんな方法によってダムを造らなくても洪水をどうにかできるのではないか。 ・2～3年ほど前までは、行政の方から「今から市房ダムの放流をする」という連絡がこの地域にはあった。連絡後、2時間余りしてからかなり水位があがってきた。これを見ると水位の上昇は市房ダムに関係があると誰もが思う。私たちは市房ダムのおかげで洪水が起こるといった認識を持っている。 ・中流部の簸瀬地区は（道路の浸水により）10年に1回くらい孤立する。それについてどう考えているのか。吉尾大橋も一向に進まない。 | <p>域の方々にご報告するために開催しているものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針は、球磨川における長期的な河川整備の目標等を定めるものであり、ダムの整備など具体の治水事業については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。 【熊本県回答】 ・ダムは、洪水時に精一杯ためて、満杯になったら一気に流すものと勘違いしている方も多し。ダムの操作は、洪水調節時は流入量の一部をダムに貯めて流入量より少ない量を放流しており、放流量は、流入量を上回ることはありません。 ・家屋浸水が発生しているところにつきましては、宅地嵩上げ等の対策をできるだけ早期に実施できるよう努力していきたいと考えています。 また、併せて洪水時の情報伝達体制の整備など、洪水による被害の最小化を図るため、ソフト対策を市町村と連携して実施していきたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・支川吉尾川について、S57年災害時に整備されたが、現在、川底が葦によってだんだん砂が溜まっており、雨が降るたびに水位が少しずつ上がっている。いつか大きな雨が降ったときに、（葦の影響で）また水害が起こるのではないかと思う。一部葦を取り除いているが、その上流の方も早急に取り除いて欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 【熊本県回答】 ・吉尾川は県の管理であり、芦北地域振興局に話をつないでおきます。 （後日、芦北地域振興局から、今後、現地立会を実施し、地元及び芦北町と協議しながら対応を検討したいと回答がっております。） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムと川辺川ダムの双方で連絡を取り合っ、いくらかでも洪水調節ができるのではないかと思うので、川辺川ダムは是非造ってもらわないといけないと思っている。 ・市房ダムと瀬戸石ダムの連携をとって操作をしてほしい。連携をとって地元にも説明して欲しい。H17年水害の時も1時間で水が道路に入ったが、もう少しで流されそうな場面もあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討することとしており、川辺川ダムの取り扱いについてもその際に検討を行っていきます。 【熊本県回答】 ・市房ダムからの放流に関する情報は、市房ダム操作細則に基づき、瀬戸石ダムに通知しております。 瀬戸石ダムからの地元への情報については、管理者である電源開発株式会社が通知しております。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸石ダムの洪水時の状況については広報が無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 【国交省回答】 ・ダム操作に関する情報提供のあり方について、市房ダム及び荒瀬ダムを管理する熊本県、瀬戸石ダムを管理する電源開発（株）、地元自治体とも連携して、今後、検討していきたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・球磨川は各支流が流れて初めてその本流の問題が考えられる。支流の吉尾川についても十分配慮して欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダム操作に関する情報の提供のあり方について、瀬戸石ダムを管理する電源開発（株）や地元自治体とも連携して、今後、検討していきたいと考えています。 ・ご指摘の通り、球磨川本流だけでなく支流も含めて河川整備を考えていく必要があります。支川の吉尾川についても、管理者である県としっかり連携をとっていきたいと思っております。 |
| <p>【球磨川の環境について】</p> | |

・東京から清流球磨川を見に来た人が、水が濁っていたので清流なんてどこにも無いと怒って帰ると言い出したと聞いたことがある。ダムが無ければきれいに流れていたと思う。ダムを造った方達はどう思っているのか。

・以前は吉尾川でも豊かな恵みを得られたが、肥薩線が建設される際に吉尾川の球磨川との合流点が球磨川に対して直角に付け替えられたために、魚の遡上が無くなってしまっている。球磨川の管理、洪水調節の問題が主に言われるが、魚族の繁殖についても格段の配慮をして欲しい。

・近年の台風による豪雨で山腹崩壊が発生して大量の土砂が河川内に流入し、濁りが発生しています。

山腹崩壊に伴う河川内への土砂流出による濁水対策は、河川管理者のみならず、林野庁、熊本県等の関係機関が、情報を共有し、連携して対策を進めていく必要があると考えています。

・遡上するアユが減少していることは認識しています。球磨川には古くから発電や農業用水を取るために堰やダムがあります。

発電や農業には非常に役立っていますが、一方で堰やダム等の横断工作物を造ると魚の行き来がしにくくなります。そこで、少しでも魚が行き来できるように堰やダムに魚道という魚の通る道を設置してきました。これまでに、魚道では多くの種類の魚が確認されている一方で、うまく機能していない箇所もあることから、今後関係機関とも連携をとりつつ、改善していきたいと考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。